

あとがき

郭 南燕

本報告集では、タイ・フィリピン・インド・ベトナム・韓国・キルギス・セルビア・ルーマニア・スロベニア・イタリア・オランダ・ニュージーランドの12カ国における日本研究について取り上げている。私の書いたニュージーランドのオタゴ大学における2008年までの日本研究を除けば、すべて現在進行形の報告であり、貴重な情報が多く提供されている。

寄稿者15名のうち、5名の方は日文研と縁が深い。岩井茂樹氏は、日文研が一翼を担う総合研究大学院大学の国際日本研究専攻の博士課程を修了し、タイのチュラーロンコーン大学での勤務を経て現在大阪大学で教鞭をとっている。Gita Keeni氏は、国際交流基金のフェローとして2011年から日文研に1年間滞在され、Ho Hoang Hoa氏は、外国人研究員として2004年から日文研で1年間研究に取り組まれた。Anca Focşeneanu氏は、ブカレスト大学で開催された日本研究のシンポジウム（2012年と2013年）を通して、日文研の研究者と交流を深められた。Cynthia Vialle氏は、外国人研究員として、2011年に日文研に5カ月滞在された方である。他の執筆者も、私の依頼をご快諾の上、報告を寄稿してくださった。

皆さんの報告を通して、外国の日本研究がどれほど活発に行われているのかわかる。海外では、日本のポピュラー・カルチャーに惹き付けられて、日本語の学習を始める者が年々増え続けており、日本研究もこれからさらに盛んになるだろう。この報告集にあるような情報を共有することによって、日本研究がさらにレベル・アップされると期待している。